

## 4 部門別計画

新病院に向けた部門別計画については、後述するとおりですが、設計業者選定段階より効率的な部門別配置についての提案を積極的に求めていきます。

### (1) 外来部門

病院に来院する全ての利用者にとって便利で使いやすいよう配慮します。

#### ① 外来診療室等

- ・ 外来診療室等は可能な限り共通の構造として、診療科ごとの患者数の増減に柔軟に対応した運用とするなど、効率的なものとしします。
- ・ 外来の各診療科や部門の配置は、患者さんの移動が少なくなるよう、関連する受付、診療科、診察室、処置室、検査室等を集約します。
- ・ セカンドオピニオン外来、禁煙外来、女性外来を充実し、漢方外来の設置を検討します。

#### ② 診療科

- ・ 診療科は以下の22科とします。

総合内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、腎・代謝内科、神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、皮膚科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、心臓血管外科、形成外科

#### ③ 整備のポイント

- ・ 受付近辺に総合案内の機能を持つインフォメーションセンタ

一を配置します。

- ・産婦人科外来と小児科外来は、感染予防のため近接しないよう計画します。
- ・産婦人科外来と感染症患者専用出入口及び感染症患者専用診察室は近接しないよう配慮します。
- ・中央採血室と臨床検査部門を隣接するよう考慮し、隣接できない場合は検体搬送動線を確保します。
- ・外来化学療法室は、将来的な拡張性を考慮した配置とします。
- ・プライバシーに配慮した待合表示板、中待合、診察室等の設置を行います。

## (2) 病棟部門

### ① 病室構成

- ・一般病床は個室及び4床室の構成とします。
- ・一般病棟の個室の割合は現在より増やし、患者ニーズに対応するように努めます。将来の個室化に対応できるよう一部の4床室を個室として利用できるよう計画します。

### ② その他

- ・患者さんが安心して療養に専念できるように快適性を高めるとともに、プライバシーに配慮した施設とします。
- ・セキュリティーに配慮した施設とします。
- ・病室は、経済性と病棟以外の部門への影響も考慮した適切なものとし、入院患者の生活の場として、清潔で安らぎのある病室とします。
- ・各フロアーに、患者さん・家族が利用しやすくリラックスできるデイルーム等を配置し、各患者さんがお互いに気持よく療養できるよう配慮します。

- ・医師が患者さんの病状説明を落ち着いた雰囲気で行えるカンファレンスルームを設置します。

### ③ 整備のポイント

- ・スタッフステーションは、病棟全体の確認がしやすい配置及び各病室への動線を考慮した配置とします。
- ・車椅子やベッド等での移動が容易な構造とします。
- ・4床室の病室面積は、8.0 m<sup>2</sup>/床以上を確保し、療養環境加算が算定できるよう計画します。
- ・病棟に、特浴室、一般浴室、シャワールーム室を整備します。
- ・救急部門、中央手術部門、ICU部門、リハビリテーション部門との患者搬送動線を確保します。
- ・薬剤部門、中央滅菌部門、臨床工学部門、栄養管理部門、中央倉庫から物品の供給が容易となるよう、供給動線を確保します。

## (3) ICU部門

### ① 機能区分

- ・救命救急センターの整備に伴い、多発外傷や広範熱傷など三次救急医療疾患に対応する救命救急センターICUを設置します。
- ・救命救急センターICU、院内ICU、CCUやHCUをまとめて配置・運用することによって重症患者を集約化し、一般病棟の負荷を減らすとともに、病棟間の均一化を図ります。
- ・重症度に応じた患者さんの流れをつくり、各ICU、CCUのスムーズな病棟管理を行います。
- ・循環器系疾患の増加に対応するため、CCUの機能維持に努めます。

## ② 整備のポイント

- ・院内 I C U と救命救急センター I C U は隣接させ、スタッフエリアを結ぶなど、内部でスタッフが行き来できる構造とします。
- ・救命救急センター I C U は救急部門と直接エレベーターで結ぶなど動線を確認します。

## (4) 救急部門

堺市二次医療圏における救急医療体制の充実を図り、あらゆる救急需要に 24 時間、365 日対応するため、三次救急医療を行う救命救急センターをはじめ、消防機関との連携による救急ワークステーション等を整備します。

### ① 救命救急センター

- ・三次救急医療機関として、重症外傷など二次救急で対応できない重篤な患者さんに対して高度な医療を提供します。

### ② 二次救急との連携

- ・救命救急センターを整備し、三次と二次救急医療が一体となった質の高い救急医療システムを構築し、現病院では受入れが困難である交通事故等による外因性の重症患者や高齢化を背景として増加している内因性の重症患者に対応していきます。

### ③ 救急ワークステーション

- ・救急救命士等の救急隊員が医療機関内で、医師をはじめとする病院スタッフと意思の疎通を図り、救急要請に対して適切・的確な対応を行います。また、救急要請に対し医師・看護師が救急車に同乗して現場へ出動するドクターカーの運用を行うな

ど、救命救急センターと救急隊員が密接に連携できる配置とします。

- ・救急救命士の育成のため、救急隊員の知識・技術の向上を目的とした教育・研修拠点となる研修室等を整備します。

#### ④ 整備のポイント

- ・救急外来入口と一般外来入口は明確に区分けし、救急外来患者と一般外来患者の動線の交錯は必要最小限に留めるよう配慮します。
- ・救急患者の迅速な検査・処置を行うため、放射線部門と近接するよう考慮します。
- ・緊急入院に対応するため、ICU部門への動線を確保します。
- ・緊急手術に対応するため、手術室へ搬送できる動線の確保を行います。
- ・緊急検体検査に対応するため、臨床検査部門と直上直下を含め近接するよう考慮し、近接できない場合は検体搬送動線を確保します。

#### (5) 中央手術部門

##### ① 手術室

- ・手術室数は、病院の医療内容や手術件数の実績など病院の特性を勘案して決定します。
- ・手術室は、患者搬送、スタッフ動線、物品の搬入・搬出など業務の効率化を念頭において整備します。

##### ② 整備のポイント

- ・術後患者の搬送のため、ICU部門と近接するよう考慮します。
- ・臨床工学部門と直上直下を含め近接するよう考慮します。

- ・中央滅菌部門とは直上直下を含めて近接するよう考慮し、近接できない場合は、清潔度を考慮した器材の搬送動線を確保します。
- ・薬剤部門及び病理部門を含めた臨床検査部門と直上直下を含め近接するよう考慮し、近接できない場合は、薬剤、検体及び輸血用血液の搬送動線を確保します。
- ・救急外来からの緊急手術に備え、救急外来からの搬送動線を確保します。
- ・手術室は、バイオクリーンルーム（クラス100）、外来手術室、その他手術室（いずれもクラス1,000）とし、少なくとも1室は多くの器材配置に備えたゆとりある面積を確保するよう考慮します。
- ・患者家族控室及び患者家族への術後説明を行うカンファレンスルームを整備します。
- ・器材展開スペースを中央手術部門内に配置できるよう考慮します。
- ・中央手術部門のゾーニングは、清汚を明確に区分けします。

## （6） 内視鏡部門

### ① 内視鏡検査・治療

- ・患者さんの体に負担の少ない、内視鏡等を活用した低侵襲の治療は、より早い回復、社会復帰が期待できるため、地域の医療需要等に的確に応えるものとしします。

### ② 整備のポイント

- ・救急医療における緊急検査・治療が円滑に実施できるような配置とします。
- ・放射線部門と隣接するよう考慮します。
- ・救急外来と近接するよう考慮します。

- ・病理部門と直上直下を含め近接させるか、近接できない場合は検体搬送動線を確保します。

## (7) 病理部門

正確な診断と診断時間の短縮により、患者さん中心の病理診断を行います。

### ① 病理組織診断

- ・迅速組織検査、迅速細胞診検査等の術中検査ができるように、病理検査室と中央手術部門が連携できる配置とします。

### ② 病理解剖

- ・感染予防に配慮した解剖室を設置します。

### ③ 整備のポイント

- ・病理部門は、中央手術部門及び内視鏡部門と直上直下を含め、近接させるか近接できない場合は検体搬送動線を確保します。
- ・病理部門は、栄養管理部門、薬剤部門、患者利便施設とは隣接及び近接を避け、動線が交錯しないよう考慮します。
- ・解剖室は霊安室と隣接させます。
- ・ゴミの搬出動線と霊安室は近接しない配置とします。
- ・解剖室には、隣接したスタッフシャワー室を設置します。

## (8) 臨床検査部門

### ① 検体・生理検査

- ・効率的な検査体制を整備します。
- ・24時間体制の救急部門からの緊急検査の要請にも対応できるよう、連携が図りやすい配置とします。

## ② 整備のポイント

- ・尿検査室と採尿トイレは隣接させます。また、採血室と臨床検査部門は直上直下を含め近接するよう考慮し、近接できない場合は検体搬送方法を確保します。
- ・中央手術部門及びICU部門に近接するよう考慮し、近接できない場合は検体搬送方法を確保します。
- ・心電図検査室は、負荷心電図検査室に隣接させるとともにプライバシーに配慮します。
- ・筋電図室、脳波検査室を整備します。また、ともにシールド整備を行うとともに脳波検査室は脳死判定に対応できるものとしします。

## (9) 放射線診断・治療部門

### ① 放射線診断

- ・放射線診断については、救急部門と密接に連携し、迅速な対応が可能となるよう整備を行います。

### ② 放射線治療等

- ・患者さんのアメニティ、プライバシーに配慮した施設とします。
- ・高齢者のがん患者さんの増加などに対応した、より侵襲の少ない放射線治療の特徴を発揮できる体制とします。
- ・将来の医療需要に対応できるよう、進歩している各種高精度放射線治療を取り入れ、機器の更新や体制整備が経済的かつ可能となる構造とします。

### ③ 整備のポイント

- ・救急部門及び内視鏡部門と近接するよう考慮します。

## (10) リハビリテーション部門

### ① リハビリテーション室

- ・リハビリテーション部門は、当院の入院患者を中心に診療します。患者さんが退院後も安心して継続的にリハビリテーションを受けられるように、地域のリハビリテーション関連施設と密接な連携を図ります。
- ・患者さんの早期社会復帰を促すため、急性期のリハビリテーションを実施できる設備と機器を適正に整備します。
- ・リハビリテーション部門は、診療報酬上の上位基準の取得が可能な面積とします。

### ② 心臓（大）血管外科リハビリテーション

- ・心臓（大）血管外科リハビリテーションについては、外来及び入院患者に適切な診療体制を整備します。

### ③ 整備のポイント

- ・入院患者を中心に診療するため、入院患者のアクセスが容易となるよう配慮します。

## (11) 人工透析部門

### ① 透析室

- ・透析導入期や合併症のある入院患者さんを対象に人工透析を行います。長時間にわたる透析をリラックスして受けただけのような設備を整備します。

### ② その他

- ・患者さんが安心して透析を受けられるように安全管理を行い、質の高い医療を提供します。
- ・臨床工学部門や病棟部門等との連携をもとに治療を行います。

### ③ 整備のポイント

- ・利用実績を十分精査し、適正な面積の整備を行います。

## (12) 薬剤部門

### ① 相談窓口

- ・薬品に関する情報提供や指導・相談などを充実するため院外処方せん相談窓口の設置、充実を行い、患者サービスの向上を図ります。

### ② その他

- ・安全な服薬管理を行います。
- ・持参薬管理やハイリスク医薬品使用者への対応、調整、混注などの業務を充実し、安全性の向上を図ります。
- ・救急部門の緊急の要請にも応えられるように供給体制を充実します。
- ・薬剤部門の面積については、病棟薬局を含め機能の集約化や薬品在庫の縮減等を考慮して整備します。

### ③ 整備のポイント

- ・時間外患者に対して薬渡しを行うための救急薬局を設置します。
- ・病棟への搬送動線を確保します。
- ・外来化学療法室への供給動線を確保するなど、連携を図る必要があるため配置について考慮します。
- ・臨床検査部門、解剖室、廃棄物搬送動線とは分離するよう考慮します。
- ・薬剤部門内の湿度管理が行える設備を整備します。

### ( 1 3 ) 臨床研究推進部門

#### ① 治験管理室

- ・新しい治療法を開発するため多職種の専門性を高めた体制を整備し、「治験」を推進します。

#### ② 整備のポイント

- ・出入口からの動線を考慮した施設（室）を整備します。
- ・個人情報保護等、セキュリティー管理に配慮します。

### ( 1 4 ) 臨床工学部門

#### ① 安全管理

- ・急性期医療にとって重要な患者さんの生命にかかわる呼吸、循環、代謝等の生命維持管理装置の安全管理を行います。

#### ② 整備のポイント

- ・中央手術部門、I C U部門、透析部門と直上直下を含め近接するよう考慮します。
- ・病棟等への物品等の供給を行うために、供給用エレベーターと近接するよう考慮します。
- ・院内全体の人工呼吸器等医療機器の維持及び管理するための部屋の整備を検討します。

### ( 1 5 ) 栄養管理部門

#### ① 栄養食事指導

- ・「食べて治す」をモットーに、病気の治療や予防に役立つように、医師の指示に基づき管理栄養士が栄養食事指導を行います。

## ② 栄養サポートチーム（NST）

- ・低栄養状態等で栄養管理が必要な患者さんを対象に、主治医と栄養サポートチーム（医師、薬剤師、看護師、管理栄養士等）が一緒となり、栄養状態を改善し治療効果を高めるための取組みを行います。

## ③ その他

- ・患者さんの症状に応じた質の高い、安全安心な食事を提供します。
- ・入院、外来を問わず、病気の治療や予防に役立つように、栄養食事指導の充実を図ります。
- ・厨房等は合理的な厨房機器を選定するとともに食材、食品の在庫管理を徹底するなど、面積の縮小に努めます。
- ・病棟の食堂においては、感染防止に留意しつつ、癒しのスペースを実現するための環境整備を行います。
- ・中央配膳とし、温冷配膳車を用いた配膳とします。

## ④ 整備のポイント

- ・栄養管理指導が行える指導室を整備します。
- ・食材の搬入口とゴミ庫への搬出口は分離します。
- ・専用更衣室及び専用トイレを配置します。
- ・臨床検査部門、解剖室、廃棄物搬送動線とは分離するよう考慮します。
- ・配膳専用エレベーターを設置します。

## (16) 中央滅菌部門

### ① 感染予防

- ・質の高い医療を円滑に提供するため、人と物の動線等による清潔、不潔領域を区分するなど、安全かつ効果的な運用を行います。

### ② 整備のポイント

- ・中央手術部門と隣接もしくは、中央手術部門への滅菌器材の供給及び不潔器材の回収ルートを確認します。
- ・ゴミ庫は、給食部門と隣接しないよう配慮します。
- ・供給用エレベーターを通じ、中央倉庫と効率的な連携が図れるように動線を確認します。

## (17) 感染症部門

### ① 感染予防

- ・一般診療の患者さんとの動線を明確に分離するため、感染症患者専用の出入口の動線を確認するとともに、陰圧となる診察室・処置室を設置します。

### ② 整備のポイント

- ・感染症患者専用出入口、感染症患者専用診察室を整備します。
- ・緊急入院が必要となった場合に備え、感染症患者専用診察室から一類感染症病床及び二類感染症病床への動線を確認します。

## (18) 災害医療部門

### ① スペースの確保

- ・災害拠点病院として大規模災害発生時にも対応が可能となる施設整備を行います。

- ・災害時のトリアージスペース（大量患者発生時にトリアージができる一定のオープンスペース）として、駐車場等を活用します。

## ② 整備のポイント

- ・患者さんの広域搬送に対応できるよう屋上ヘリポートを設置します。
- ・自家発電装置、貯水槽等のライフライン維持機能を整備します。
- ・災害用の各種備品等を備蓄できる備蓄倉庫を整備します。
- ・屋外に災害用トイレが設置できるよう計画します。
- ・大規模災害発生時の患者さんの受入れスペースを確保し、必要となる施設整備を行います。

## (19) 安全管理部門

### ① 医療事故の防止

- ・それぞれの医療スタッフの個人レベルでの事故防止対策と医療施設全体の組織的な事故防止対策によって、医療事故等の発生を未然に防ぎ、患者さんが安心して医療を受けられる医療安全管理室等の環境を整備します。

### ② 院内感染防止

- ・特に注意が必要な院内感染については、医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師等からなるICT（院内感染制御チーム）を中心に防止対策にあたります。

### ③ 整備のポイント

- ・放射線に対する安全対策、院内感染防止対策など患者さんが安心して療養に専念できる施設計画とします。
- ・病院が備えるべき安全の基本となる壊れない、滑らない、手

を挟まない、落下しないなどの日常的な事故に対する安全対策を徹底します。

## (20) 医療連携部門

地域医療室や相談室等を整備し、地域医療機関との連携強化、役割分担を図るとともに、患者さん等からの相談に対応します。

### ① 地域医療連携

- ・地域医療機関からの紹介による受入れ窓口となる地域医療室を充実します。地域医療機関等とのネットワークを推進し、役割分担を行いながら、地域全体で患者さんをサポートします。
- ・インターネットや地域連携ニュース等により病院の情報を発信し、積極的な広報活動を行います。

### ② 相談業務

- ・患者さんの目線に立った医療を推進する観点から、相談機能を強化し、患者サービスの充実に努めます。

### ③ 整備のポイント

- ・相談室を集約的に配置し、栄養指導や服薬指導にも共用できるように考慮します。
- ・相談窓口は、患者さんや家族等が立ち寄りやすい外来フロアに近接した場所に設置し、プライバシーに配慮した構造とします。
- ・入院受付を集約した入院専用受付ブースを設置します。

## ( 2 1 ) 臓器・組織移植提供部門

### ① 臓器・組織移植提供体制の整備

- ・「臓器の移植に関する法律」に基づく臓器・組織移植提供に対応するため体制の整備を行います。

### ② 整備のポイント

- ・臓器・組織移植提供体制の整備に伴い必要な諸室、家族への説明を行うカンファレンスルーム等を整備します。

## ( 2 2 ) 患者利便施設

### ① 環境等の整備

- ・入院患者や外来患者、その家族にとって療養に集中できる環境の整備を行い、多様化しているニーズに対応します。

### ② 整備のポイント

- ・土日も営業を行うコンビニエンスストアもしくは売店、喫茶・レストラン、書店を設置します。
- ・自販機コーナーを設置し、憩いスペースを確保します。
- ・健康応援図書室を設置します。
- ・銀行等の A T M を設置します。
- ・理・美容室の設置を検討します。
- ・病棟にコインランドリーの設置を検討します。
- ・情報提供コーナー、ボランティアルームを整備します。

## ( 2 3 ) 物品管理部門

### ① 業務の効率化

- ・物品管理の徹底等に努め、安定供給及び質の確保を第一としてコストの縮減等、更なる業務の効率化を図るための体制を整備します。

- ・病院全体の物流計画に配慮し、在庫スペースの合理化等面積の縮減に努めます。

## ② 整備のポイント

- ・物品管理部門、中央滅菌部門、薬剤部門、リネン庫を供給用エレベーターで結ぶなど、効率的な動線を確保します。
- ・物品管理部門は、物品搬入口との動線を考慮します。
- ・リネン庫は、洗濯室に近接するよう考慮します。

## (24) 管理運営部門

### ① 幹部諸室等

- ・幹部諸室の配置については、病院全体の連携、医療機能面での効率性等を十分検討した上で決定することとし、必要以上の個室は設けないこととします。
- ・幹部諸室と医局、看護局、事務局は互いに近接するよう考慮します。
- ・各諸室等については、使用人数等に基づく合理的な面積とし、過剰な整備とならないよう努めます。
- ・事務室や会議室は柔軟で効率的な活用が図れるような構造とします。
- ・講堂を設置し、一般市民向け講習等を実施するだけでなく、多くのスタッフが集まる会議室・研修室としての機能や、大規模災害発生時の患者受け入れスペースとしても活用します。

### ② 保安管理

- ・監視カメラを設置するなどセキュリティー管理を徹底し、不審者侵入の予防に努めます。特に、夜間のエレベーター使用制限や小児科・産科病棟へのセキュリティー管理を厳重に行います。

### ③ その他

- ・人材確保、育成のための施設・設備の整備を行います。
- ・健全な財政運営を実現するため、情報システムの有効活用を図り、各部門との連携のもと、効率的な経営管理を行います。
- ・個人情報セキュリティの強化を図ります。
- ・ITを活用した警備・監視システムを構築するなど、病院利用者の安全性を確保します。
- ・職員が最新の情報を得られ、情報を共有できるシステムを計画します。

### ④ 整備のポイント

- ・会議室兼研修室、カンファレンスルーム、宿直室・仮眠室、休憩室等の諸室を確保します。
- ・会議室兼研修室は可動式間仕切りを設けるなど、必要に応じて分割使用ができるようにします。
- ・病後児を含む保育施設及び職員宿舎を整備し、職場環境の向上を図るとともに、人材確保に努めます。
- ・職員図書館、研究室等を整備します。